

# 屈斜路湖の「御神渡り現象」

## 41年間の記録寄贈

北海道の蜂谷さん 八剣神社と長野日報社に

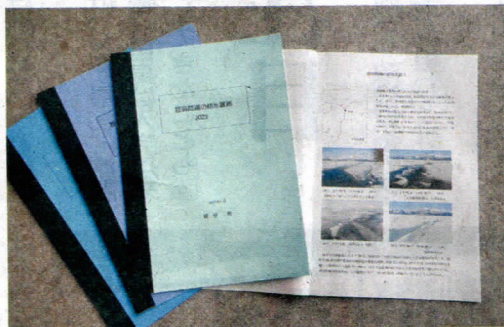
41年間の屈斜路湖御神渡り現象の記録をまとめ長野日報社に寄贈する蜂谷衛さん（右から2人目）



蜂谷さんは屈斜路湖がある弟子屈町出身で、今年の5月まで在住。26歳の時、NHKが放映した屈斜路湖の水が立ち上がる現象に強い衝撃を受け、観

この間1999年には、弟子屈町に親戚がいた故飯田悦司さん（1925～2019年）が、蜂谷さんと長野日報社との縁を結び、本紙は同年から今年ま

発刊した「屈斜路湖の結氷観測」「屈斜路湖における結氷と御神渡り現象の研究Ⅱ」など



察が始まった。以来、シーズンには20～30回、湖で克明に記録し続けてきた。

丘脈の成長の様子など、写真、グラフなどでまとめ、考察を記している。「むすび」に

「過去40年のデータを見る」と、2000年以前は全て全面結氷していたが、以降は2007年、15年、20年と3年全面結氷しなかった。また、結氷時期も1980年代はほぼ1月中旬に、90年からは2月が多いことを報告している。

で、屈斜路湖の御神渡り現象の情報を紹介。この同社本社を訪れた蜂谷さんに、佐久秀幸会長らが今冬までの26年間にわたり、途切れることなく情報を寄せてもらったことに深く感謝して労をねぎらった。

発刊した「結氷観測」はA4サイズで4冊計77冊に及ぶ。いつ凍り始め全面結氷したか、水丘脈がどの位置にどのように現れ、氷暖化が叫ばれている昨今、北の湖から御神渡り現象がなくならないことを願わずにはいられない」と結んでいる。

蜂谷さんの観察は今季が最後。「途中からは、誰かがやらなくてはいけないという使命感を持ってやってきた。湖面を稲妻のように走る氷の隆起はいつ見ても壮大で、人知をはるかに超えた自然の神秘を感じる。温暖化が叫ばれている昨今、北の湖から御神渡り現象がなくならないことを願わずにはいられない」と結んでいる。



### 屈斜路湖

周囲57㍍、表面積は約80平方㍍。湖中には島があり、流れ込む川は大小合わせて20数河川、流れ出る川は釧路川のみ。周囲に温泉が湧出する。御神渡り現象は、冷たい風にあふられた湖水が凍り付いて3層ほどにも成長する「しづき氷」などとともに、気象や観光面など広範囲に注目されている。